

# 工事の げんば 現場より

今はこんな様子だよ。

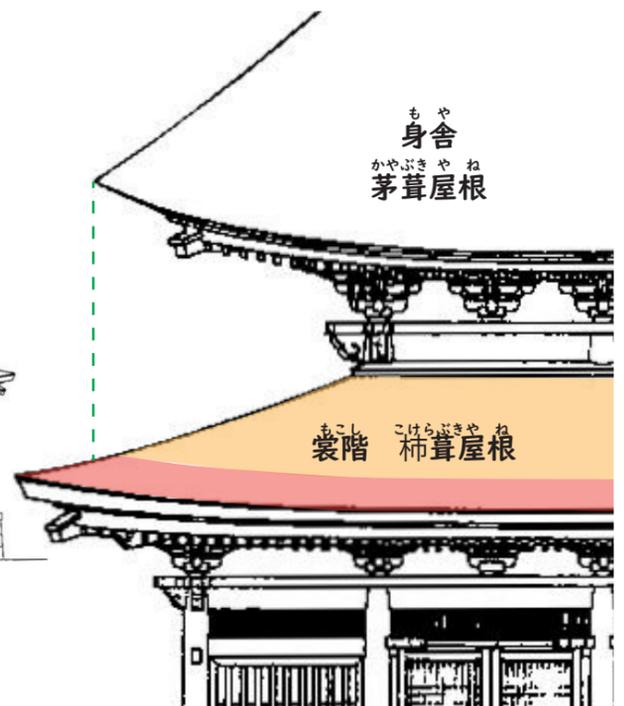


## 9月2週目

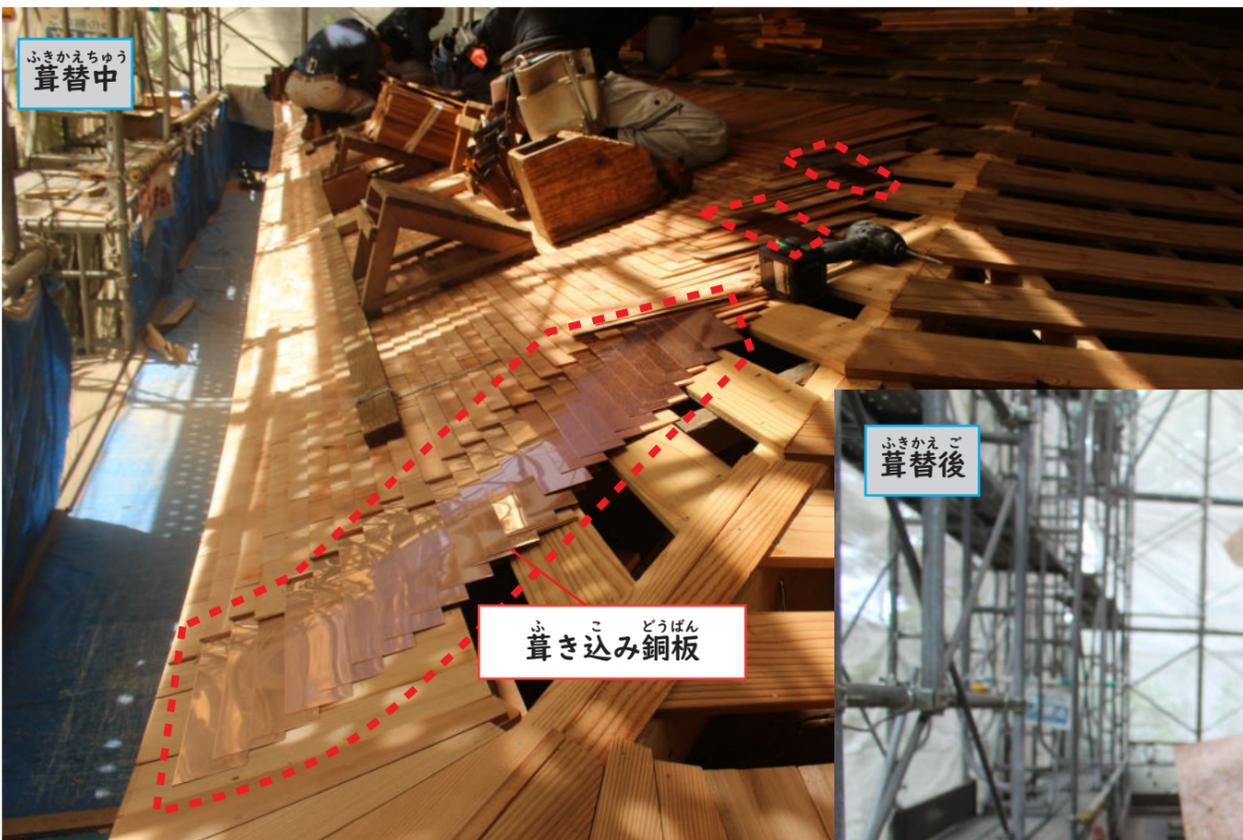
旧東慶寺仏殿では裳階の柿葺屋根の施工が行われました。裳階の屋根は内側の約2/3が身舎の茅葺屋根の下にあるため雨や日の光が当たらず劣化がゆっくりなのに対し、外側約1/3は雨風日光にさらされ、また身舎の茅葺屋根を伝って落ちてくる雨水には木材を腐朽させる菌が多く含まれるため、柿板の劣化は著しいものでした。今回は今後の劣化を少しでも遅らせるため、根本的に傷みやすい場所である外側には、木材腐朽菌の殺菌に効果があるとされる銅板を多めに葺き込みました。銅板は柿板の下側に敷かれるため表面には見えませんが、雨により銅板が濡れると、そこから銅イオン(Cu<sup>2+</sup>)が流れ出て、殺菌効果を発揮することが期待されます。



葺きかえまえ  
葺替前



▲葺替前の様子。軒先の板は摩耗激しく、また一部コケが繁茂していました。



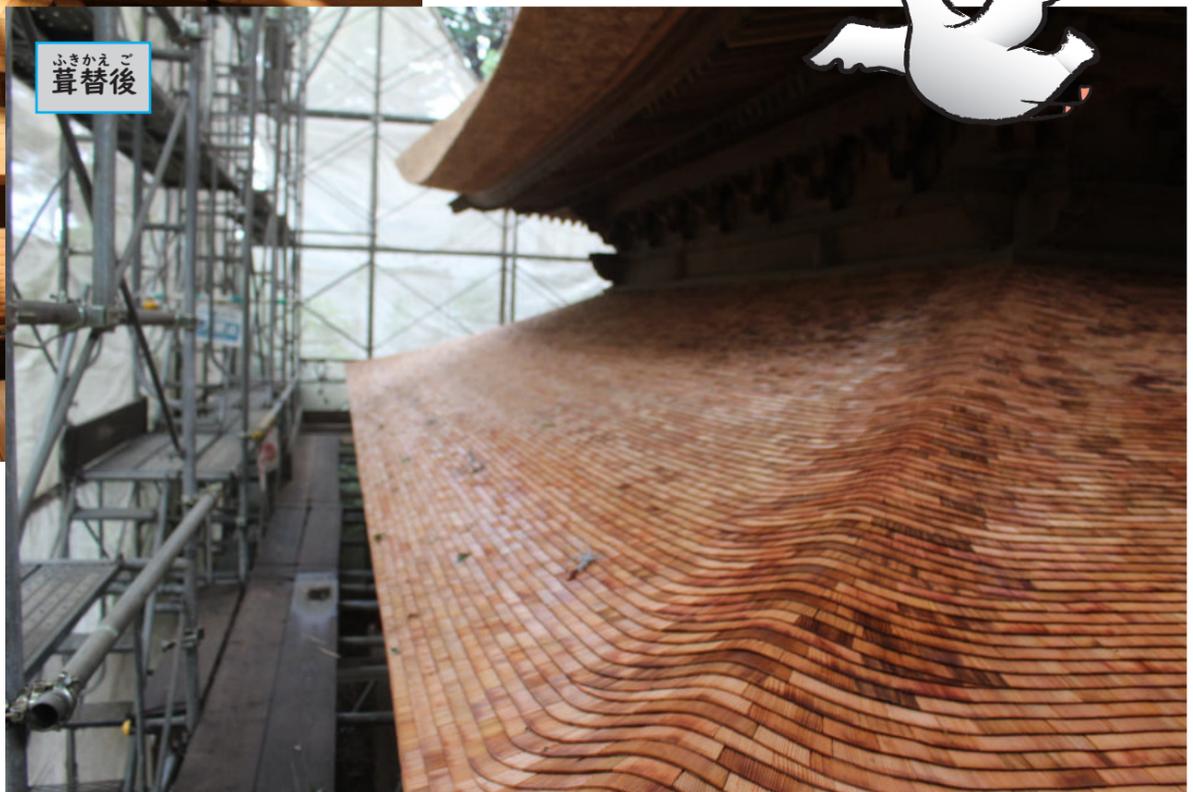
葺きかえちゆう  
葺替中

葺き込み銅板

腐朽菌による劣化害が少ないと  
考えられる場所は、葺き込み銅板の量  
をまばらにする。銅板は高価だから、  
使いどころが肝要だね。



▲軒先に葺き込まれた銅板。一足毎(板を1枚葺いた毎)に間に銅板を挟み込んで葺き重ねている。板の間に挟み込んで葺く銅板を「葺き込み銅板」と呼び、通常は8~10足毎(板を8~10枚葺き重ねた毎)に銅板を葺き込んでいる。



葺きかえご  
葺替後